

評価指標算定等資料1

平成27年11月13日
沖縄県

目次

(1) 沖縄の地形・地盤

- ①地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ②地質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ③活断層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(2) 災害

- ①津波・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ②土砂災害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

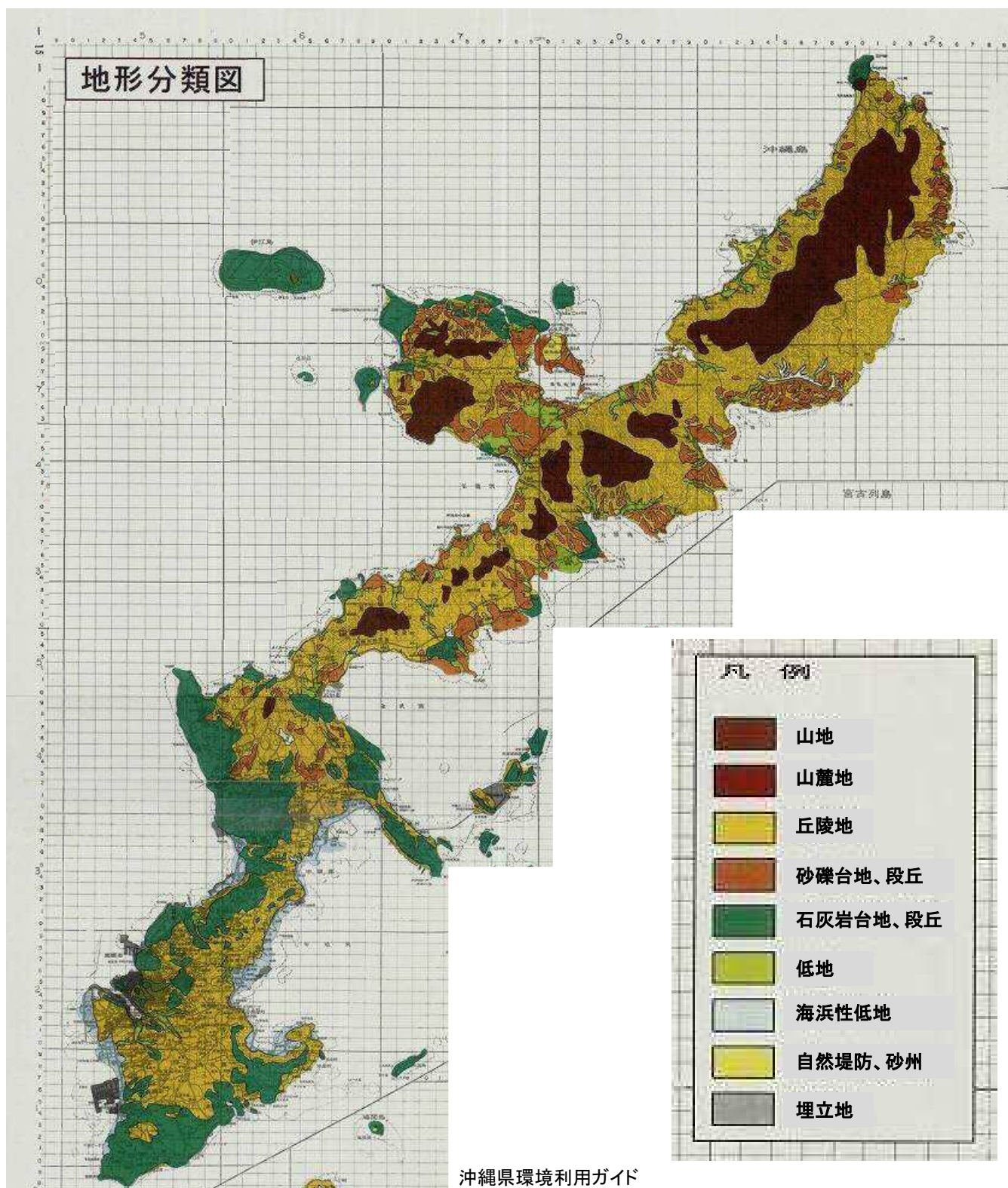
(3) 環境

- ①自然環境(陸域植物)・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ②自然環境(陸域動物)・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ③自然環境(地下水)・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ④自然環境(人触れ、景観、歴史文化)・・・・・・・・ 10
- ⑤自然環境(景観)・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ⑥自然環境(自然環境法令等)・・・・・・・・・・・・ 12
- ⑦生活環境(騒音等)・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ⑧都市計画区域・・・・・・・・・・・・・・ 14

(1) 沖縄の地形・地盤

① 地形

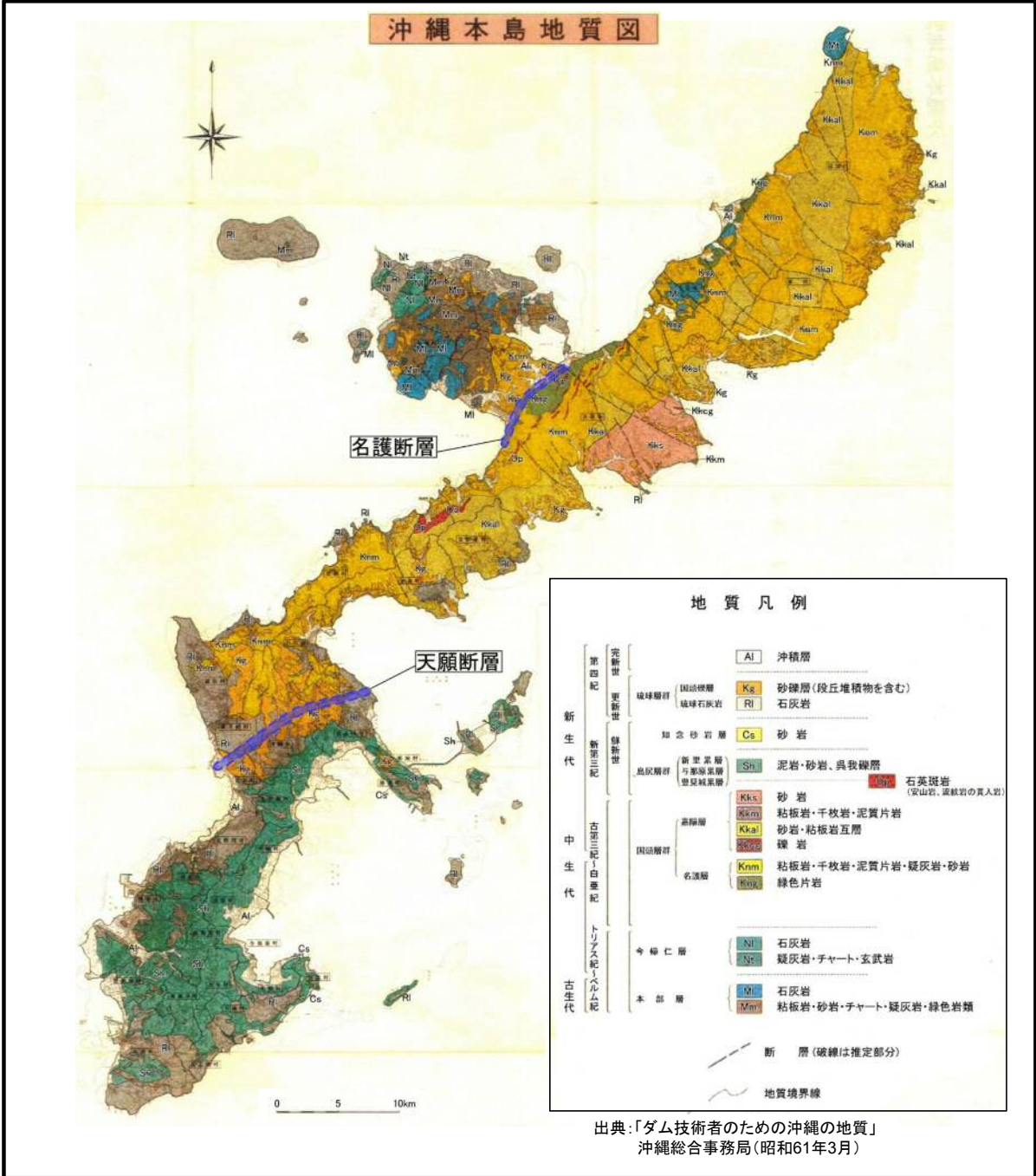
- 北部は、山地、丘陵地が多い。
- 中南部は、丘陵地や石灰岩台地・段丘が広がっている。



(1) 沖縄の地形・地盤

②地質(平面図)

- 北部は、主に硬い石灰岩の今帰仁層と本部層、風化しやすい国頭層群に覆われている。
- 中北部は、国頭層群名護層を基盤としている。
- 中南部は、島尻層群泥岩層を基盤としている。
- 本島全域に、強度にばらつきのある琉球石灰岩が分布している。
- 北部では名護断層、中南部では天願断層等が知られている。



(1) 沖縄の地形・地盤

②地質(断面図)

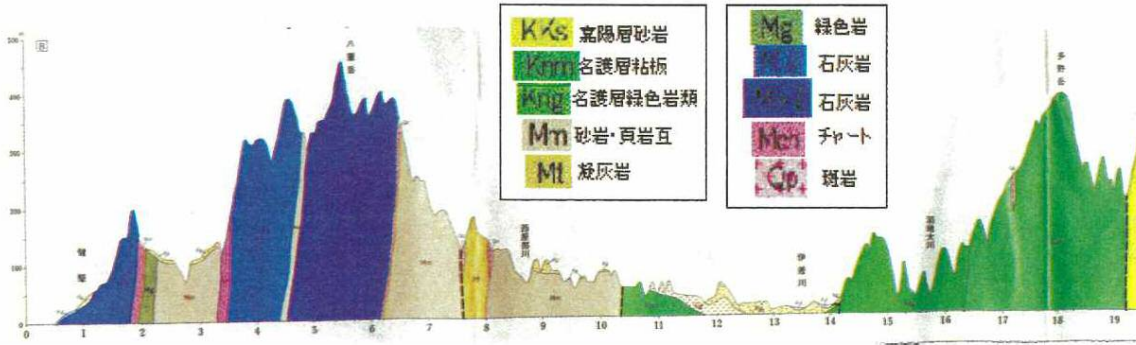


図 沖縄本島北部地質断面図 (断面 a-a')

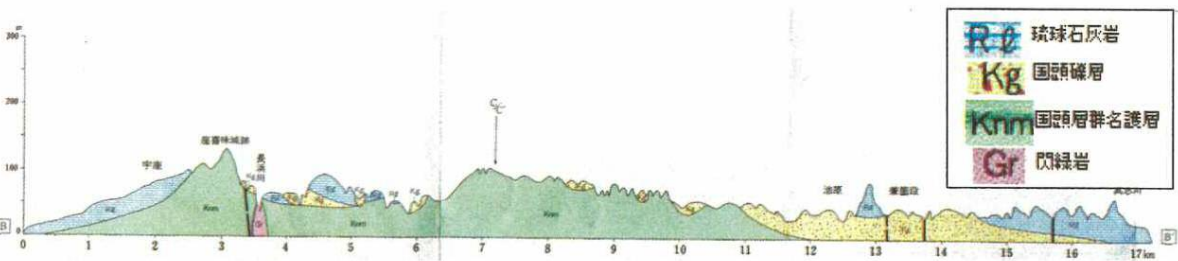
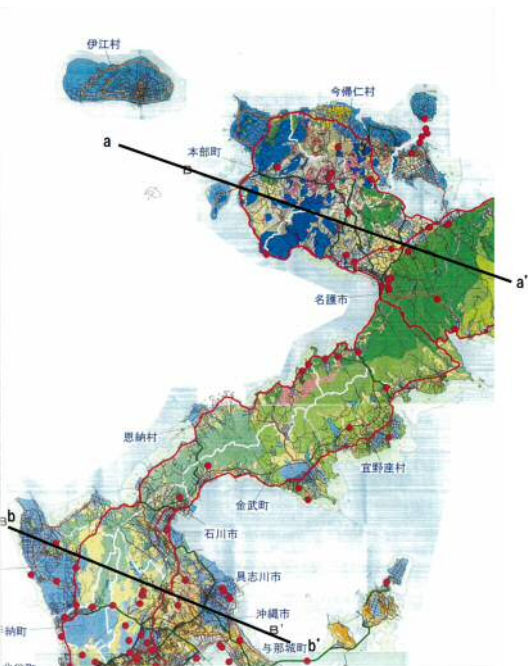


図 沖縄本島中南部地質断面図 (断面 b-b')



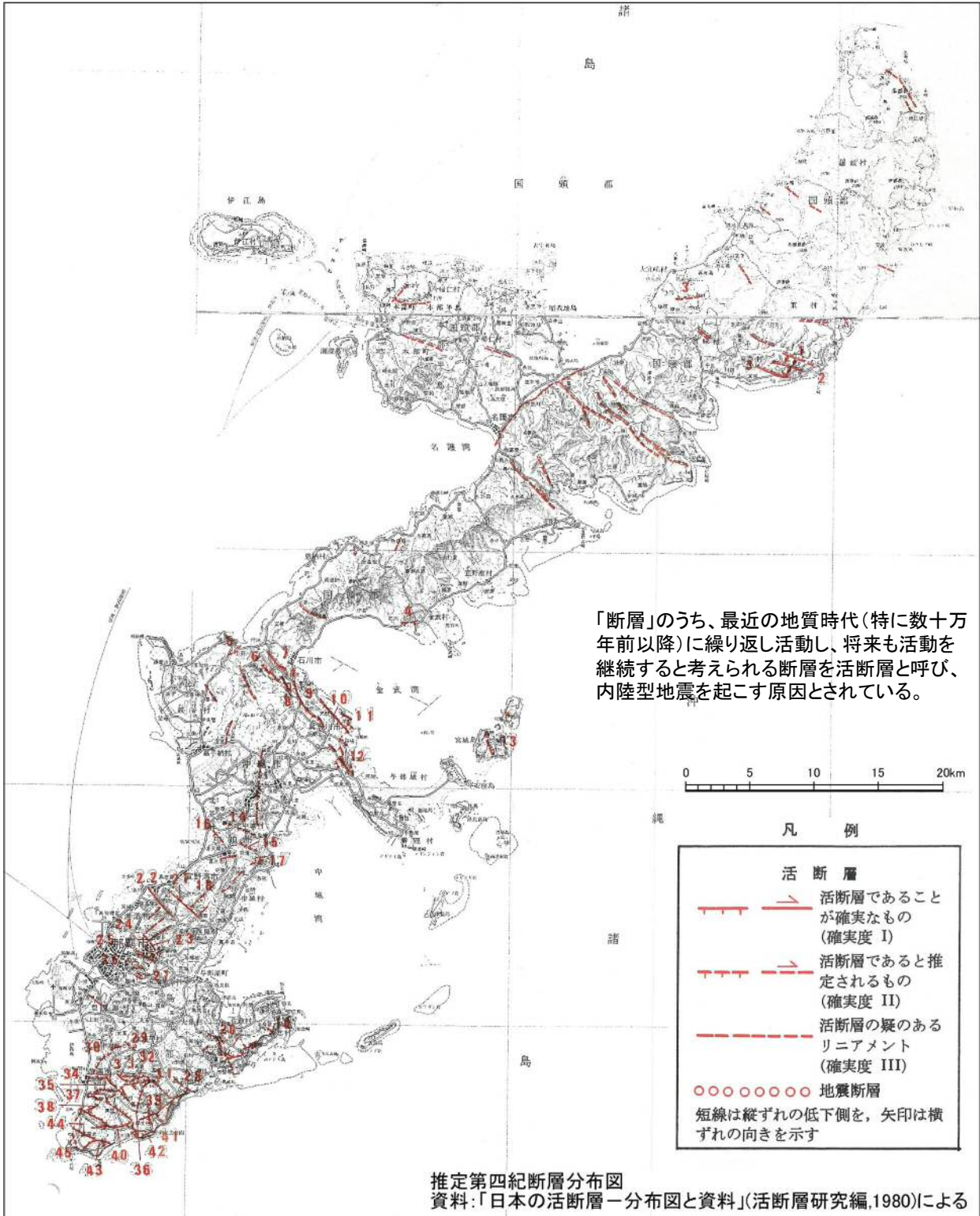
図 沖縄本島中南部地質断面図 (断面 c-c')



(1) 沖縄の地形・地盤

③活断層

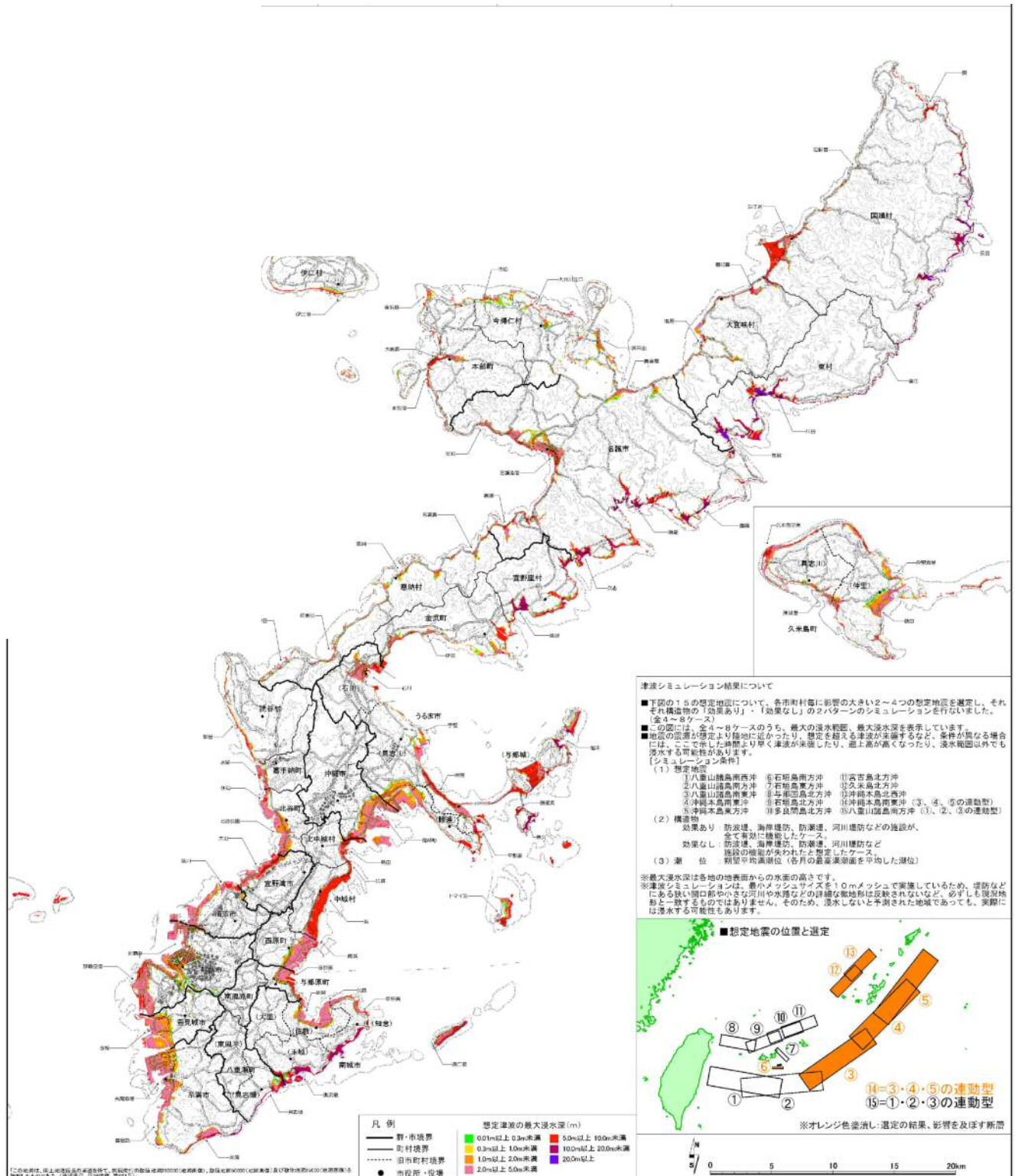
■活断層は、中南部に集中しており、北部では名護市、本部半島、東村等に存在している。



(2) 災害

① 津波

■ 想定津波の最大水深が大きい地域としては、太平洋側の東村、名護市、宜野座村、南城市等があげられる。



(2) 災害 ② 土砂災害

■ 中南部地域の東側に土砂災害危険箇所が連坦している。

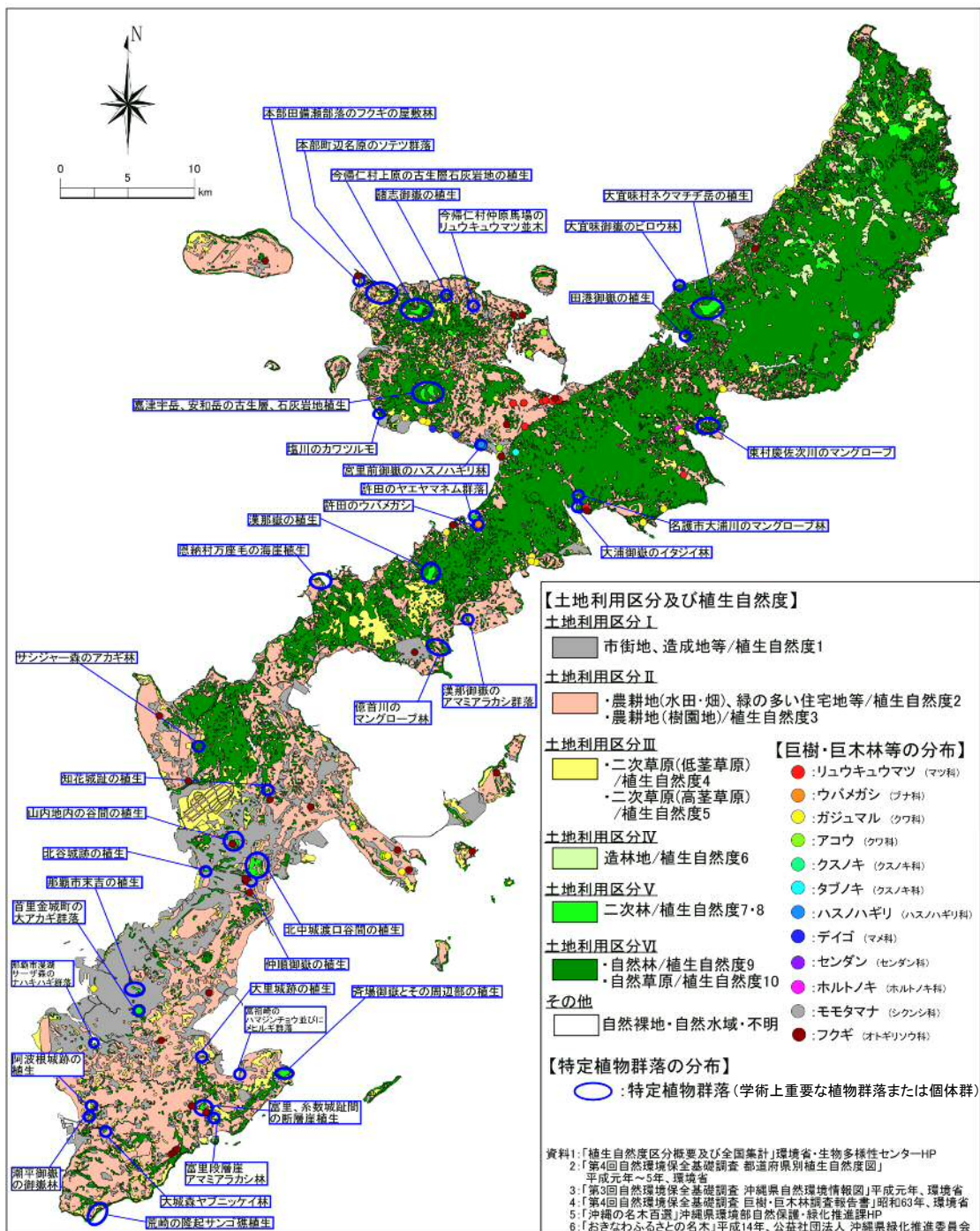


出典 国土数値情報 土砂災害危険箇所 第2.0版を基に作成

(3) 環境

① 自然環境(陸域植物)

- 北部の山地部は、スダジイを中心とする自然度の高い樹林地が広がっている。
- 中南部は市街地や農耕地が広がり、一部に御嶽林等の樹林地が分布している。
- 特定植物群落、保全すべき巨樹・巨木林が本島全域に点在している。



(3) 環境

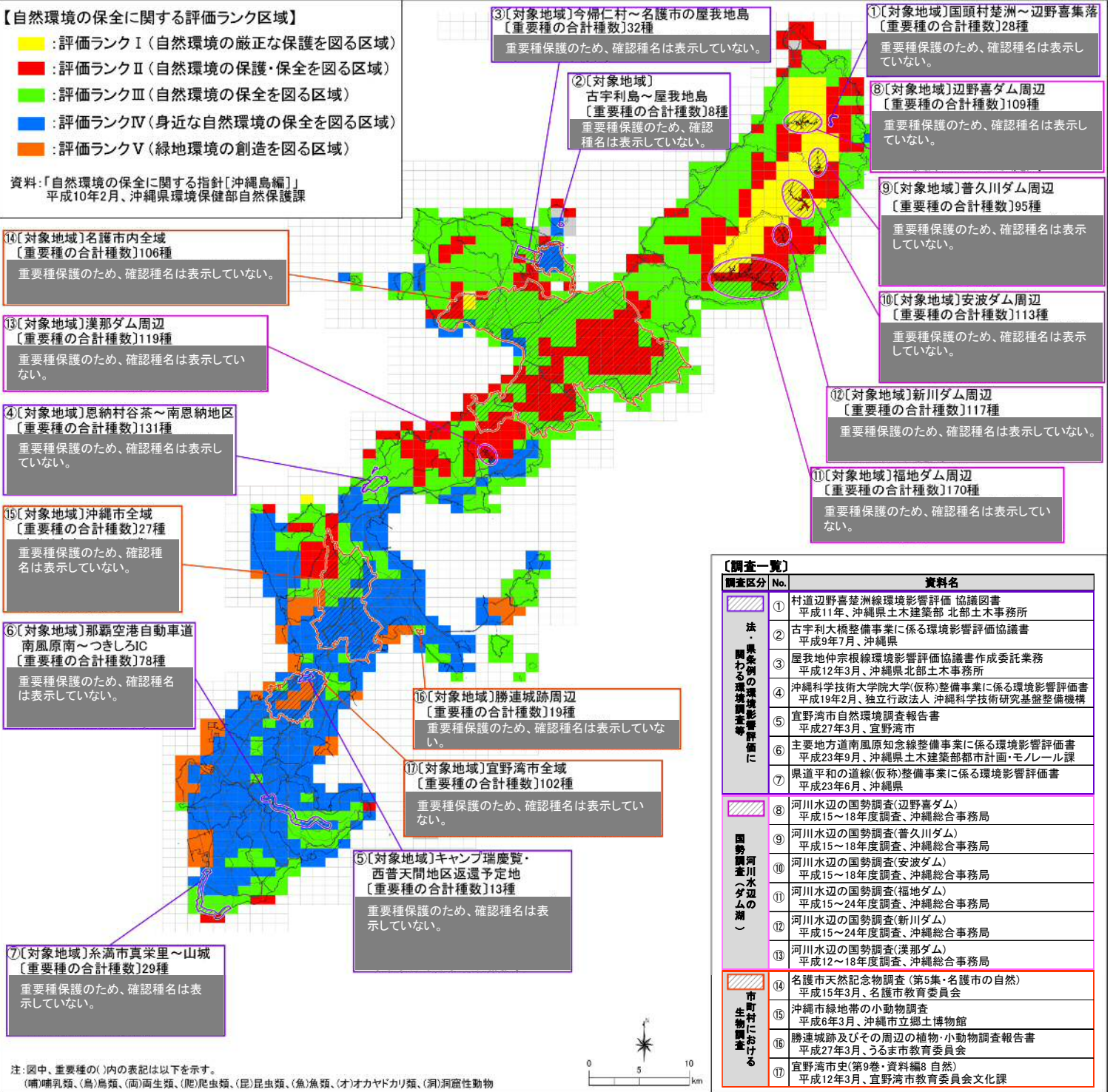
② 自然環境(陸域動物)

- 自然環境の保全に関する指針によると、本島北部は自然環境の保護・保全を図る区域として評価ランクⅠ～Ⅲに区分されている。
- アセスに伴う環境調査や河川水辺国勢調査等によると、特に北部で天然記念物等の重要種が多く確認されている。

【自然環境の保全に関する評価ランク区域】

- 評価ランクⅠ(自然環境の厳正な保護を図る区域)
- 評価ランクⅡ(自然環境の保護・保全を図る区域)
- 評価ランクⅢ(自然環境の保全を図る区域)
- 評価ランクⅣ(身近な自然環境の保全を図る区域)
- 評価ランクⅤ(緑地環境の創造を図る区域)

資料:「自然環境の保全に関する指針[沖縄島編]」
平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課



【調査一覧】

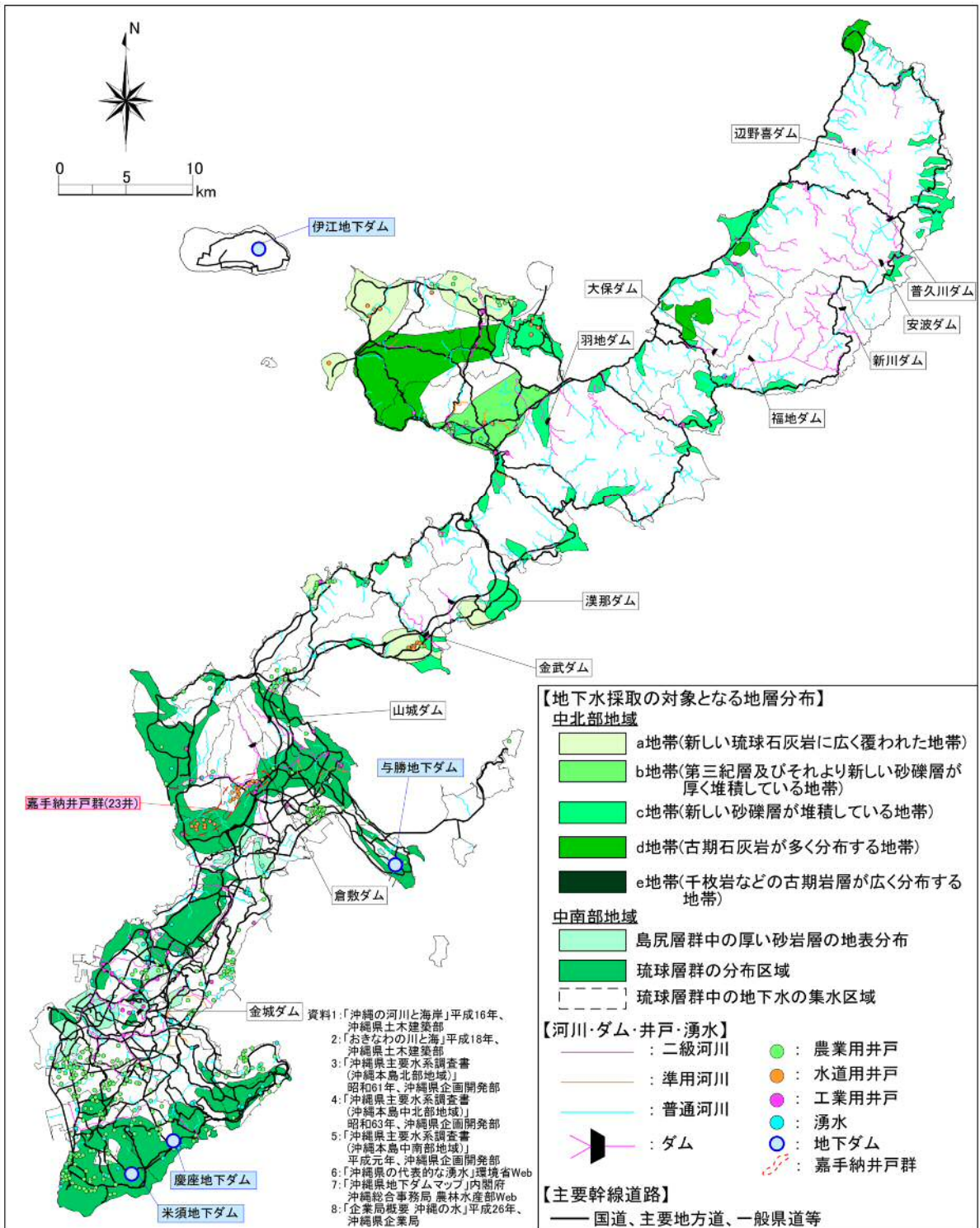
調査区分	No.	資料名
法・関係する環境影響評価に	①	村道辺野喜楚洲線環境影響評価 協議図書 平成11年、沖縄県土木建築部 北部土木事務所
	②	古宇利大橋整備事業に係る環境影響評価協議書 平成9年7月、沖縄県
	③	屋我地仲宗根線環境影響評価協議書作成委託業務 平成12年3月、沖縄県北部土木事務所
	④	沖縄科学技術大学院大学(仮称)整備事業に係る環境影響評価書 平成19年2月、独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構
	⑤	宜野湾市自然環境調査報告書 平成27年3月、宜野湾市
	⑥	主要地方道南風原知念線整備事業に係る環境影響評価書 平成23年9月、沖縄県土木建築部都市計画・モノレーン課
	⑦	県道平和の道線(仮称)整備事業に係る環境影響評価書 平成23年6月、沖縄県
国勢調査(水辺の)	⑧	河川水辺の国勢調査(辺野喜ダム) 平成15～18年度調査、沖縄総合事務局
	⑨	河川水辺の国勢調査(普久川ダム) 平成15～18年度調査、沖縄総合事務局
	⑩	河川水辺の国勢調査(安波ダム) 平成15～18年度調査、沖縄総合事務局
	⑪	河川水辺の国勢調査(福地ダム) 平成15～24年度調査、沖縄総合事務局
	⑫	河川水辺の国勢調査(新川ダム) 平成15～24年度調査、沖縄総合事務局
	⑬	河川水辺の国勢調査(漢那ダム) 平成12～18年度調査、沖縄総合事務局
市町村における生物調査	⑭	名護市天然記念物調査(第5集・名護市の自然) 平成15年3月、名護市教育委員会
	⑮	沖縄市緑地帯の小動物調査 平成6年3月、沖縄市立郷土博物館
	⑯	勝連城跡及びその周辺の植物・小動物調査報告書 平成27年3月、うるま市教育委員会
	⑰	宜野湾市史(第9巻・資料編8 自然) 平成12年3月、宜野湾市教育委員会文化課

注: 図中、重要種の()内の表記は以下を示す。
(哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、魚類、オカヤドカリ類、洞窟性動物)

(3) 環境

③ 自然環境(地下水)

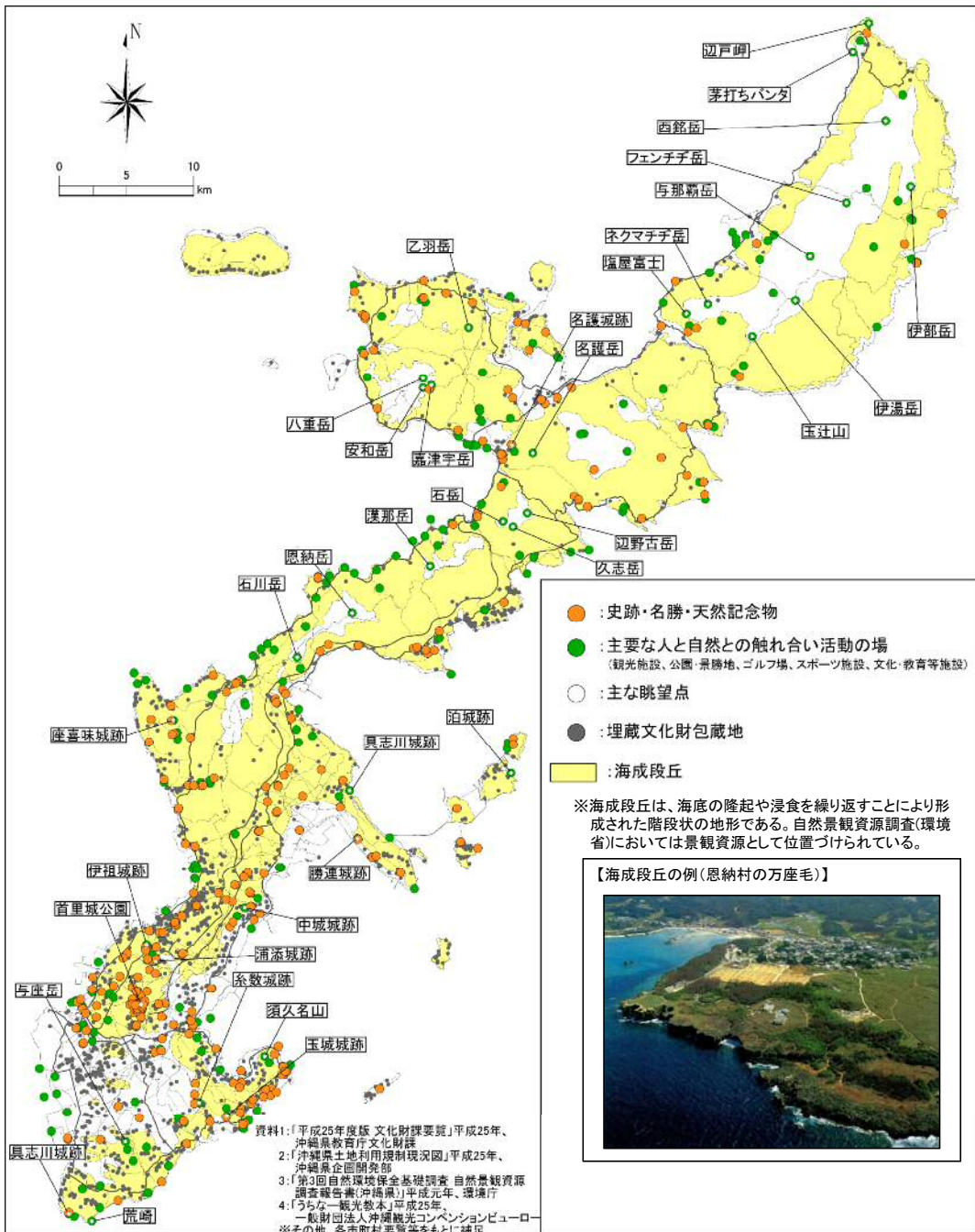
- 地下水帯水層は、北部の本部半島、中南部の嘉手納町、うるま市、宜野湾市、糸満市等に分布している。
- 地下水利用については、中南部に嘉手納井戸群や米須地下ダムなどの施設があり、本島全域に井戸や湧水が分布している。



(3) 環境

④ 自然環境(人触れ、景観、歴史文化)

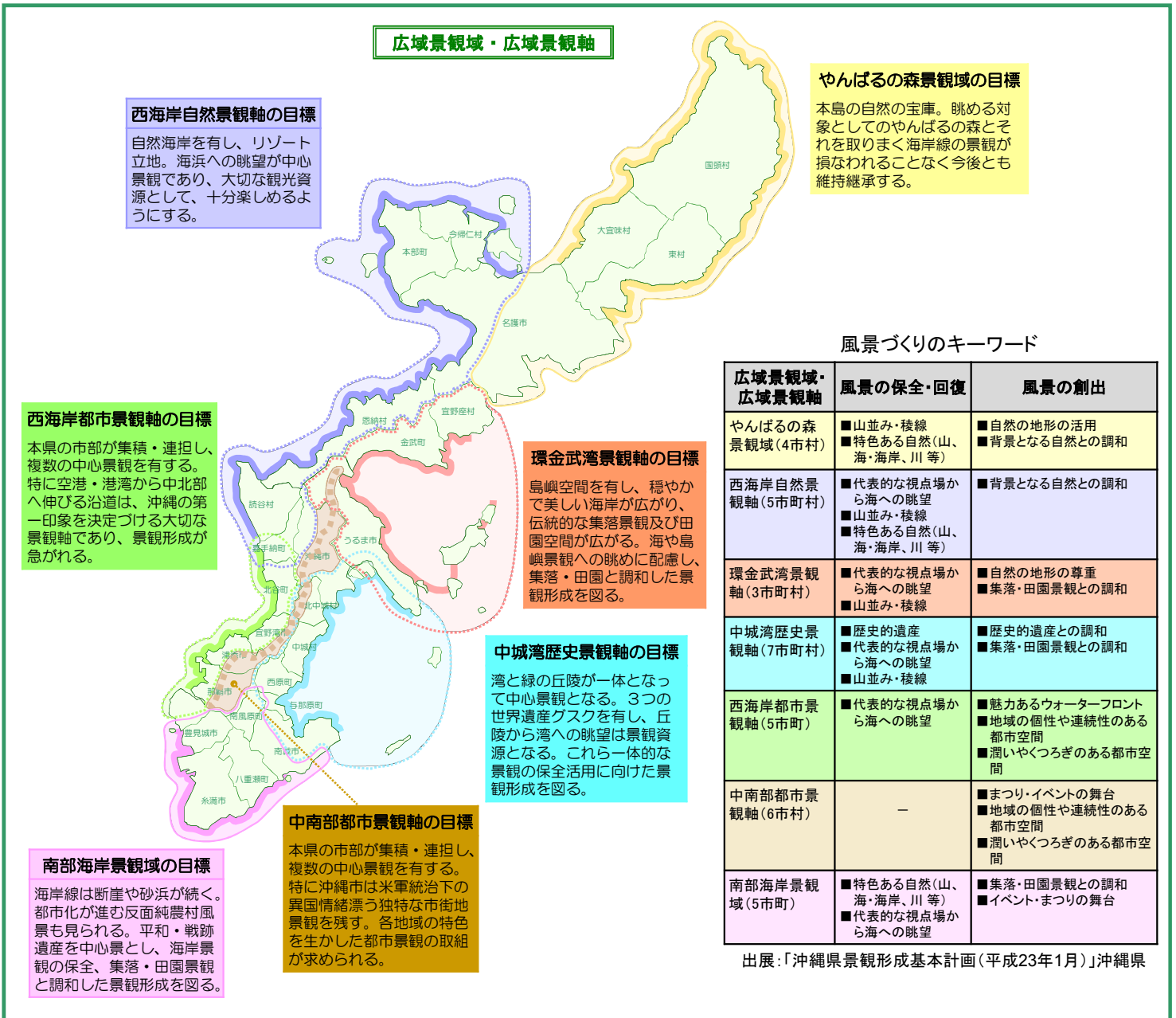
- 主要な人と自然との触れ合い活動の場(公園・景勝地等)は、北部西海岸や中南部に主に分布している。名護岳、勝連城跡、首里城公園などの山地・丘陵等が主な眺望点となっている。
- 景観資源として海成段丘が本島全域に広く分布し、植生等と自然景観を形成している。
- 史跡・名勝・天然記念物は那覇市、浦添市、南城市に特に多く分布している。



(3) 環境

⑤ 自然環境(景観)

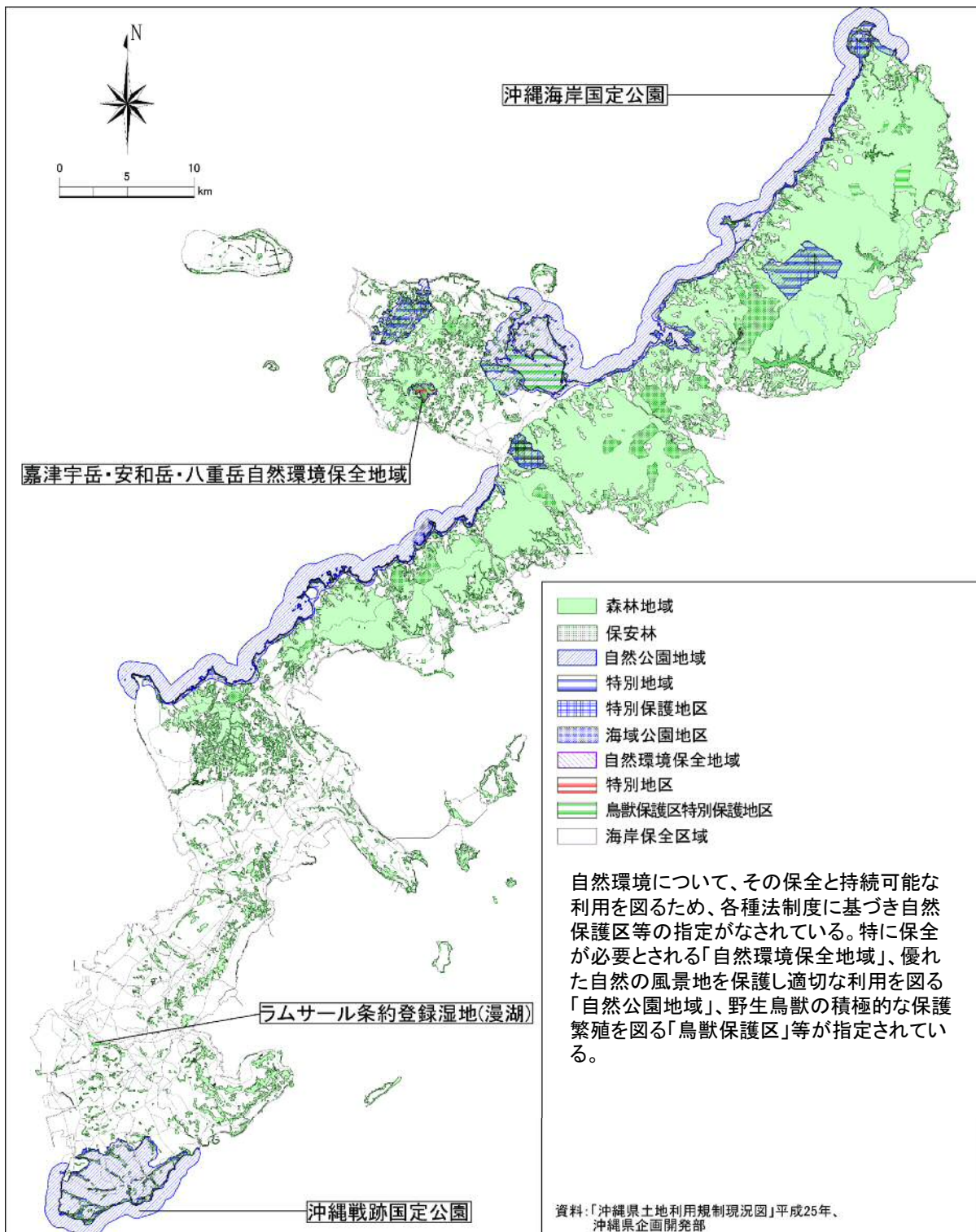
- 沖縄県の景観形成において重要な区域・軸について「広域景観域・広域景観軸」として設定されている。
- 北部では、主に森や海などの自然景観が眺望の中心になっている。
- 中南部の西海岸や那覇市から沖縄・うるま市間は、都市景観軸として、基地跡地、中心市街地など複数の中心となる景観を有する。
- 中城湾では自然景観や歴史景観、南部海岸では自然景観や集落・田園風景が中心となる景観となっている。



(3) 環境

⑥ 自然環境(自然環境法令等)

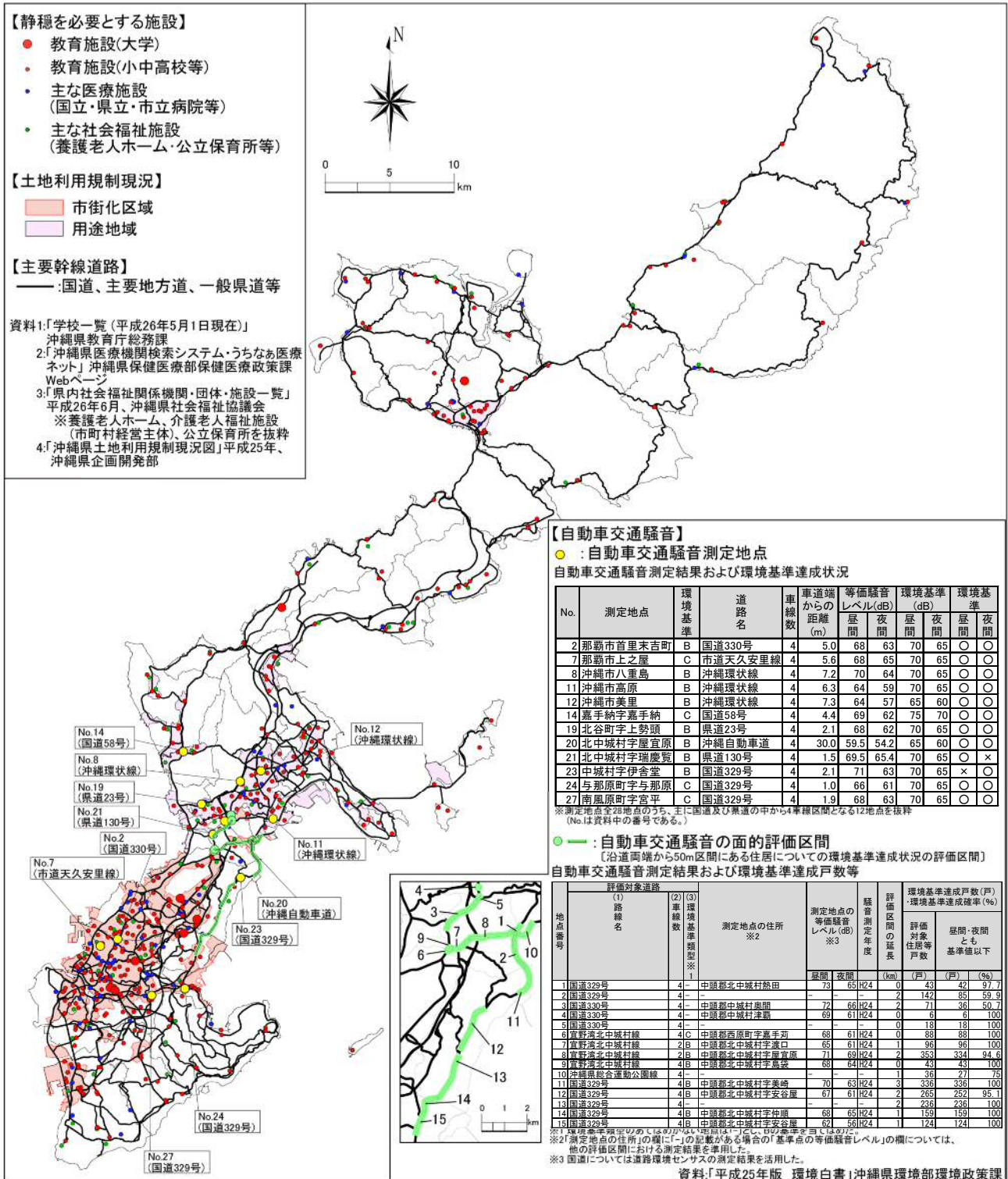
- 北部の大部分は森林地域となっており、山地部には伐採や開発に制限のある保安林に指定されている地域がある。
- 北部の西海岸等は、自然公園地域に指定がされている。



(3) 環境

⑦ 生活環境(騒音等)

- 学校等の静穏を必要とする施設は中南部の市街地に集中している。
- 都市計画区域内の市街化区域と用途地域においては、騒音に係る環境基準の類型指定、騒音規制法及び振動規制法に係る規制地域指定がされている。



(3) 環境

⑧ 都市計画区域

- 沖縄本島には5つの都市計画区域が設定され、それぞれ都市の将来像が示されている。
- 那覇広域都市計画区域は、市街化区域を設定(区域区分制度)。
- 北部圏域と中南部圏域の間に位置する金武町、宜野座村、恩納村には都市計画区域は設定されていない。

